



鷹野雅生 議会速報

GASHIN

Vol.25 2022.9

〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

この号の内容

【観光関連】

- 1 はじめに
- 2-6 子育て環境の充実
- 7 子育て環境の充実 要望-

はじめに

皆さん、こんにちは。八幡みらいクラブの鷹野雅生です。本日最後の質問者となります。皆さん、お疲れのところではありますが、もう少しお付き合いいただきますように、よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従い質問をさせていただきます。

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと思います。

子育て環境の充実

今回も本市が子育て環境の充実をどのように図っていくのかを中心に質問させていただきます。

子育てに関しては前回6月の議会でも、八幡市としての独自の取組として、どんなことをしてこられたのか、新型コロナウイルス感染症の続く中での対応策についてもお尋ねしました。子育て環境の充実を図るということであれば、京都府は子育て環境日本一を目指すと表現したことです。

目指すにしても、府を取り巻く子育て環境の大変厳しいことは多くの分野にわたっています。例えば合計特殊出生率を見ただけでも、府県別ではワースト5位、全国平均を上回ったことがありません。2020年の全国平均が1.33に対し、京都府は1.26に留まっていました。その年の出生数は1万6,440人と、過去最少の数字でした。子育て環境問題は今、日本が直面している喫緊の課題です。つい先日の新聞で大きく報道されましたが、「小・中学生、10年で100万人減る」と大きく書かれており、346自治体で30%以上とあります。少子化の影響です。特に郡部では、過疎化とも相まって学校の統廃合や休校が加速し、小・中学校では、2020年に2万9,793校、10年間で約3,000校も減っています。

人数の要る部活動ができない学校も出てきています。減ったところは大変だと思いますが、増えたところもありまして、木津川市は30%増とあります。全国的に見れば都市部のベッドタウンとして増加したほか、子育て世帯を支援する取組が評判を呼んだケースもあると言われています。

子育て環境問題に対応していくために大切なことは、日本における少子化の現状をきっちり把握しておくことだと思います。

厚生労働省が発表する合計特殊出生率によりますと、2011年は全国平均で1.30となり、2006年以降で最低水準です。

長期的に人口を安定させるためには数字が2を上回る必要があると言われていますが、第2次ベビーブームの1974年を最後に下回り続け、歯止めがかからないのが現状です。

少子化の根本的な課題は、出産のきっかけとなる結婚する人の数が減っていることです。1970年代前半には年間100万人を超えていた結婚件数は、2021年、50万組と半分に落ち込み、この数字は地方にも同じように表れ、京都府内では約9,400組と、1万組を割り込んでいます。平均の結婚年齢も男性が31歳、女性29歳と晩婚化しており、したがって第1子出産時の母親の平均年齢も高くなっています。

その結果、第2次ベビーブーム期に年間200万人を超えた出生数は、2016年に100万人を下回り、昨年は約81万人。国の推計より約10年早く70万人台に下がりそうで、京都府内の出生数も年間2万2,000人を目標、昨年は1万5,000人と、2008年から6,000人減っています。

府内への人口流入も苦しい状況で、5年間で目標とした転入超過に届かず、2019年は3,443人の転出超過という数字も見られます。

最初に述べた合計特殊出生率が府内で唯一の2を超える自治体があります。福知山市だそうです。福知山市は支援とともに、両親が近隣に住んでいる子育て地域が多く、それが高い出生率につながっているという見方もあるそうです。小さい子を預けられる相談所も多いとありました。学ばせていただく必要がありそうです。

医療費の無償化

施策の充実

子育て環境日本一

子育て環境の充実

先頃、京都府知事市町村長会議が開催され、合計特殊出生率が全国での下位にある京都府の現状をどうしていくか、各首長が改善策を求めておられました。

知事は、コロナ禍前に策定した現在の京都府総合計画の期間 2024 年3月を待たずに内容を見直す方針を掲げておられ、4月の知事選で掲げておられた公約のテーマ、温かい京都づくりを柱に重点を置く子育て環境日本一、コロナ対策についても様々な意見や要望が述べられたと聞いています。

福知山市のように出生率の高いところもあるので、地域差の分析や 18 歳までの医療費の無償化、2人目以降は学童保育の所得制限をなくす。3人目の出産を考えてもらえる施策、医師の偏在を少しでも解消してほしい、平時から地域医療の体制を整えることがコロナのような緊急時の対応につながるといった要望が相次いだと聞いています。

前回の質問の中で、子育てに力を注ぎ安心して子育てができる子育て世代を応援する施策の充実は、八幡市のためでもあり子育て環境日本一を目指す京都府の方針につながっていくことになりましてと申しました。



子育て支援について

八幡市は、京都府が掲げておられる子育て環境日本一を目指すという方針に全面的に賛同し、京都府の方針にこれからも府下のトップを切っ
て対応することを発信すべきだと考えるのですが、いかがでしょうか。



本市は、これまでから京都府下で初めての認定こども園の開設、また先ほどご評価いただきました子ども・子育て支援の総合センターすくすくの杜の整備、また令和2年度には京都府子育てにやさしいまちづくりモデル事業交付金を活用いたしましたさくら近隣公園の整備を行うなど先駆的に子育て支援施策に取り組んでまいりました。
今後は本市の子育て支援施策のより効果的な発信に努めまして、引き続き府市協調で、西脇知事が掲げておられます京都府子育て環境日本一の推進に取り組んでまいりたいと存じます。

子育て環境の充実

子育て世代に選ばれるまちとして、環境面も大切であると考えます。
まず、子どもや家族が十分遊べる公園です。本市には多くの公園があり、最近では、さくら公園をリニューアルされ、全長 88 メートルのうんていや滑り台も新しくされました。八幡スポーツ公園や欽明台公園などは、休日には多くの子どもたちの声が聞こえてきます。
保護者や子どもたちの交流のためにも公園は欠かせません。



「公園の遊具」について

今後どのように整備されていくのか、お聞かせください



子育て支援における公園の在り方について、公園施設などの整備につきましては、議員ご案内のとおり、令和2年度に京都府の子育てに優しいまちづくりモデル事業交付金を活用し、さくら近隣公園の再整備を行い、長距離うんていや大型スライダーの遊具を設置いたしました。
遊具などの公園施設は老朽化対策が課題でありますことから、平成 28 年度に策定した八幡市公園施設長寿命化計画に基づき、順次公園施設の改築を進めております。
今後につきましても、八幡市公園施設長寿命化計画に基づき、引き続き実施してまいりたいと考えております。

また、公園は高齢者の憩いの場になっている場合もあります。
公園に人が集うことで、子育て世代と高齢者世帯の交流も自然と生まれ、子育て支援につながっていくような気がしております。



「人が集う公園の仕掛け」について

公園に自然と人が集うような仕掛けについて、何かお考えや事例などがありましたら、お聞かせください。



公園に自然と人が集うような仕掛けにつきましては、有利な財源を活用し先ほどご説明いたしました遊具の整備だけでなく、高齢者をターゲットにした健康器具を設置した公園や、園路のバリアフリー化、多目的トイレの設置など、子どもから高齢者に至るまでの多くの方々にとって、居心地のよい安心してお使いいただける公園の整備ができればと考えております。

子育て環境の充実

今回、橋本小学校と橋本幼稚園の運動場と庭園の芝生化が行われました。子どもたちにとっては大変よい環境になると思います。また、芝生は子育て世帯の親にとって大きな魅力になるのではないのでしょうか。

Q 「今後の芝生化」について

- ①学校
- ②就学前施設
- ③公園

上記の芝生化も進めていただきたいと思いますがお考えをお聞かせください。

A

①学校に係る芝生整備について。

橋本小学校の校庭の芝生化は、工事が終了したところで、現在、散水芝刈り、施肥といった日常管理を施工している状況でございます。冬季も含めた維持管理手法を確立していく段階でございます。今後につきましては、橋本小学校での実績を踏まえ検討してまいりたいと考えております。

②就学前施設における今後の芝生整備について。

これまで整備してきた園での実績なども踏まえ検討してまいります。

③公園の芝生化について。

これまで地域の団体からの要望に基づき、馬場市民公園及び有智郷市民公園にて芝生化を行ってきた経過がございます。今後につきましても、市民協働による公園の芝生化について検討してまいりたいと考えております。

子育て環境の充実

前回、子育てに関して、すくすくの杜での行事、イベント、その内容、成果を高く評価しながら、ご答弁いただきました。

すくすくの杜が八幡市の誇るべき子育て支援施設であることは、全く異論はございません。コロナの拡大でほかの施設が休館されたときでも、すくすくの杜は平常どおり開館してこられました。敬服いたしております。

それらを踏まえてお尋ねいたします。



子育て支援施設について

八幡市には、子育て支援施設として、すくすくの杜を中心に3か所設置されています。

すくすくの杜以外での2か所の施設での活動状況について教えてください。



子育て支援センターあいあいポケットと、第2子育て支援センター

そよかぜでの活動状況についてでございますが、子育て支援センターあいあいポケットでは指月児童センターに併設し、児童センターの環境を生かして、中庭の芝生や砂場で親子で触れ合う場の提供を実施することや、地域において育児の援助を受けたい方と、育児の援助を行いたい方との相互援助活動をマッチングさせるファミリーサポートセンターを設置するなどの子育て支援を行っております。

第2子育て支援センターそよかぜでは、南ヶ丘第二保育園内に併設されている環境を生かし、保育園でのアットホームな環境の中で、妊婦の方や就学前の子どもを抱える保護者の相談支援などを行っております。

以上で1回目の質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

子育て環境 要望

それぞれご答弁いただき、ありがとうございました。
それでは2回目の質問をさせていただきます。

本市の子育て支援について、前回第2回定例会並びに今回のご答弁でも、京都府で先駆けて多くの子育て支援施策に取り組んでいただいていることが分かりました。市長が議会の答弁の中で、京都府の子育て環境日本一に協力するために全力で頑張りますと述べていただいたことは、応援のメッセージになりました。これからも積極的に子育て支援策にお取り組みいただきますとともに、京都府と八幡市がしっかりとスクラムを組み、府市協調で、子育て環境日本一、子どもが輝く未来のまち八幡を目指していただきますよう、よろしく願いいたします。

要望といたします。

次に、子育て支援における公園の在り方についてお伺いします。
整備された自然環境の下で子どもを元気よく育てていきたいと誰もが思っていますが、自然環境にプラスできる、行きたくなる場所づくりを考えていただきたいと思います。鉄棒や滑り台などの遊具がそろっているところも増えてきていますが、子どもにとって気軽に行きたくなるものが用意されることも大事な環境です。大きな公園は考えていただいていると思いますが、家の近くにある子育て環境を大切にしていきたいと思います。

Q 身近な小さな公園だからこそ、細かいところまで行き届いていると気づいていただけるような公園づくりを目指していただきたいのです。いかがお考えでしょうか。

A 身近な小さな公園の整備についてでございますが、八幡市公園施設長寿命化計画は、比較的小さい街区公園を含む全都市公園を対象にしており、身近な小さな公園につきましても、遊具等の改築を順次行っております。
今後につきましても、八幡市公園施設長寿命化計画に基づくとともに、子育て環境にも配慮しながら、引き続き実施してまいりたいと考えております。

次に、公共施設の芝生化については、八幡市の公共施設は芝生が多いとなっていけば、八幡市の印象度が高くなっていくと思います。また、歩きたくなるまちづくりにもつながり、芝の適切な弾力、ふわっとした感じは、健康づくりにもつながると思います。今後も積極的に進めていただきますよう、要望とさせていただきます。

次に、子育て支援施設については、本市の子ども・子育て支援総合センターとして位置づけているすくすくの杜以外に、子育て支援センターあいあいポケットと第2子育て支援センターそよかぜにおかれましても、それぞれの特色を生かし、親同士の交流の場として、また妊婦や生まれて間もない小さな子どもを抱えた保護者の方が相談できる場として取り組まれていることが分かりました。引き続き各施設において、ハード面、ソフト面、それぞれの特色を生かしながら、子育て支援の充実に努めていただきますよう要望いたします。